

民生常任委員会

他都市行政調査 実施報告書

奈良県生駒市 11月6日
地域包括システムについて



1. 生駒市の概要

人口 120,238人 (H30.10.1 現在)

面積 53.15k㎡

2. 視察の目的

高齢化が進む中において、団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれている。

その2025年を目途に厚生労働省では、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの構築を推進しており、その事業の先進的な取り組みをしている生駒市を調査した。

3. 調査項目

○介護予防・日常生活支援総合事業

取り組んでいる事業内容について

○生活支援体制整備～地域づくりの促進～

地域力の向上（介護予防・見守りから支え合い）

○地域ケア会議の促進

地域ケア会議の取り組みについて

○医療介護連携の促進

生駒市における「医療・介護連携」の体制について

○認知症施策の促進

認知症の早期発見・早期治療や家族への支援について

○地域包括支援センターの機能強化

良質なセンターであるための機能強化について

4. 今後の展開について

生駒市で地域包括ケアとして行っている取り組みの特徴の一つである通所型サービス（パワーアップPLUS教室）では、教室を卒業された一部の方がサポーターになっており、その方にとっての居場所ややりがいを創出できることに加え、参加者にとっても安心感をもたらすことができているとの事であった。岩見沢市においても、そのような取り組みを参考とし、さらなる研究をしていくことが重要である。

民生常任委員会

他都市行政調査 実施報告書

大阪府高石市 11月7日

スマートウェルネスシティについて



1. 高石市の概要

人口 57,938人 (H30.10.1 現在)

面積 11.30km²

2. 視察の目的

岩見沢市においても、「人もまちも元気で健康」を理念としたまちづくりを進めているが、高石市においては健康で幸せな社会づくりを理念とした「スマートウェルネスシティ」に加盟し、まちづくりに取り組んでいる。当市の健康経営都市のさらなる発展に向け、その事業内容について調査した。

3. 調査項目

○高齢化率の推移

人口と高齢化率の見通しについて

○移動手段や歩行の現状

日常的な移動手段や道路整備の例について

○健幸ポイント

高石健幸ポイントの事業内容・詳細について

○健幸のまちづくり協議会について

市・市民・参加団体の3者協同による相互連携について

4. 今後の展開について

自律的に「歩く」を基本としたスマートウェルネスシティの構築により、歩道と自転車道とを明確に分けて道路を整備し、「歩きたくなる」環境づくりを進めている高石市の取り組みは積雪等において環境の違う当市においてどの程度効果があるのか。また、健幸ポイントについては当市が行っている事業と比較・検討し、市民の健康づくりにおいてさらなる事業の充実ができるよう、今後も研究が必要だと感じた。

民生常任委員会

他都市行政調査 実施報告書

大阪府泉大津市 11月8日

あしゆびプロジェクトについて

1. 泉大津市の概要

人口 75,065人 (H30.10.1 現在)

面積 13.56k㎡

2. 視察の目的

市民の健康増進、また、介護予防の取り組みについて、岩見沢市は「クチトレ」などの取り組みを行っているが、高齢者は転倒して怪我をすることで介護が必要となる場合もあることから、足の指を鍛えることに特化した泉大津市の「あしゆびプロジェクト」を視察し、その効果や当市の事業との違いなどを調査する。

3. 調査項目

○あしゆびプロジェクトの始まり

産官学医と連携したプロジェクトの立ち上げについて

○取り組み内容について

実施団体・サークルやあしゆび体操について

○効果検証

事業による足指力の変化やモニターの声について

4. 今後の展開について

泉大津市の「あしゆびプロジェクト」は子供から高齢者まで幅広い市民が手軽に参加でき、実施する市もそれほど予算を必要としない点は魅力であると感じた。泉大津市の職員も就業中に草履等を履いて事業の推進・啓発を図るなど、市を挙げて取り組む姿勢は非常に参考となった。

今回調査したこの事業と当市の健康増進にかかわる事業を今後においても比較して調査・研究してまいりたい。

